

道路土工「擁壁工指針」の新旧比較表（H24/7×H11/3）を作成しております。
ご希望のユーザ様は、弊社HPよりお申し込み下さい。（無償配布）

Sample資料

「道路土工擁壁工指針（平成 24 年度版）」の改訂項目の抜粋と新旧比較表

平成 25 年 5 月改訂版
(株) SIP システム

P62

衝突荷重は、以下によるほか「防護柵の設置基準・同解説」及び「車両用防護柵標準仕様・同解説」（日本道路協会）を参考に定めると良い。の文面を追記。

(1)自動車の衝突荷重

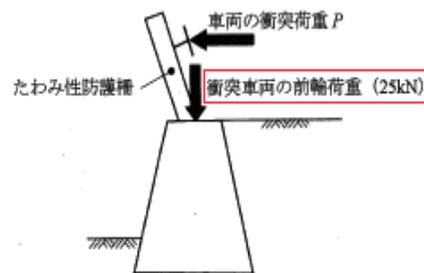
解表 4-3 「たわみ性防護柵の衝突荷重」に「モルタル固定」を追加。

防護柵の種類	衝突荷重 p (KN)		擁壁天端からの作用 高さ h (m)
	砂詰め固定	モルタル固定	
S S、S A、S B	55	60	0.76
S C	50	60	0.6 (旧 0.675)
A	50	60	0.6
B、C	30	40	0.6

P63

(2)自動車の前輪荷重

たわみ性防護柵は、・・・擁壁頂部にたわみ性防護柵を直接設ける場合には、解図 4-8 に示すように、衝突荷重と同時に擁壁頂部に衝突車両の前輪荷重 25kN を考慮するものとする。と記載。



解図4-8 衝突車両の前輪荷重

P64

4-3 土の設計諸定数

(1)土の強度定数と試験

土の強度定数 C、φを求める試験については、次のようなものがある。

P39

表 1-10 「支柱式防護柵の衝突荷重」

既定無し。

P18

1-4-2 設計諸定数の設定

P77	<p>4-4-5 設計計算に用いるヤング係数 コンクリートのヤング係数、表 4-1 内に 「設計基準強度 40 → ヤング係数 3.1×10^4」を追記。 また、設計基準強度が、表 4-1 の中間にある場合には、直線補間による値としてよい。 と追記。</p>	P48	<p>1-6-5 設計計算に用いるヤング係数 表 1-16 コンクリートのヤング係数</p>																																														
P78	<p>4-5 許容応力度 4-5-1 一般 (3)許容応力度の割増し なお、表 4-2 (許容応力度の割増し係数) 以外の荷重の組合せによる許容応力度の割増し係数 を考慮する場合は、「道路橋示方書・同解説 IV 下部構造編」に準じて良い。と記載</p>	P49	1-7 許容応力度																																														
P79	<p>4-5-2 コンクリートの許容応力度 (1)鉄筋コンクリート部材 1)・・・許容応力度は、表 4-3 コンクリートの許容応力度の値とする。</p> <table border="1" data-bbox="376 799 1469 1246"> <thead> <tr> <th colspan="2">コンクリートの設計基準強度 (σ_{ck})</th> <th>21</th> <th>24</th> <th>27</th> <th>30</th> <th>40</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">圧縮応力度</td> <td>曲げ圧縮応力度</td> <td>7.0</td> <td>8.0</td> <td>9.0</td> <td>10.0</td> <td>14.0</td> </tr> <tr> <td>軸圧縮応力度</td> <td>5.5</td> <td>6.5</td> <td>7.5</td> <td>8.5</td> <td>11.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">せん断応力度</td> <td>コンクリートのみでせん断を 負担する場合 (τ_{a1})</td> <td>0.22</td> <td>0.23</td> <td>0.24</td> <td>0.25</td> <td>0.27</td> </tr> <tr> <td>斜引張鉄筋と共同して負担 する場合 (τ_{a2})</td> <td>0.22</td> <td>0.23</td> <td>0.24</td> <td>0.25</td> <td>2.4</td> </tr> <tr> <td>押抜きせん断応力度 (τ_{a3})</td> <td>0.85</td> <td>0.90</td> <td>0.95</td> <td>1.0</td> <td>1.2</td> </tr> <tr> <td>付着応力度</td> <td>異型棒鋼に対して</td> <td>1.4</td> <td>1.6</td> <td>1.7</td> <td>1.8</td> <td>2.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 旧基準に対して、変更箇所のみ表記した。 1.コンクリートの設計基準強度 40 が追加となった。 2.コンクリートのみでせん断を負担する場合の許容応力度が変更となった。 これは、道示 (p147) に準拠した値 (平均せん断力/安全率) となっている。</p>	コンクリートの設計基準強度 (σ_{ck})		21	24	27	30	40	圧縮応力度	曲げ圧縮応力度	7.0	8.0	9.0	10.0	14.0	軸圧縮応力度	5.5	6.5	7.5	8.5	11.0	せん断応力度	コンクリートのみでせん断を 負担する場合 (τ_{a1})	0.22	0.23	0.24	0.25	0.27	斜引張鉄筋と共同して負担 する場合 (τ_{a2})	0.22	0.23	0.24	0.25	2.4	押抜きせん断応力度 (τ_{a3})	0.85	0.90	0.95	1.0	1.2	付着応力度	異型棒鋼に対して	1.4	1.6	1.7	1.8	2.0	P49	<p>1-7-1 コンクリート (1)鉄筋コンクリート 表 1-17 コンクリートの許容応力度</p> <p>左表内の赤字の項目が変更された。</p>
コンクリートの設計基準強度 (σ_{ck})		21	24	27	30	40																																											
圧縮応力度	曲げ圧縮応力度	7.0	8.0	9.0	10.0	14.0																																											
	軸圧縮応力度	5.5	6.5	7.5	8.5	11.0																																											
せん断応力度	コンクリートのみでせん断を 負担する場合 (τ_{a1})	0.22	0.23	0.24	0.25	0.27																																											
	斜引張鉄筋と共同して負担 する場合 (τ_{a2})	0.22	0.23	0.24	0.25	2.4																																											
	押抜きせん断応力度 (τ_{a3})	0.85	0.90	0.95	1.0	1.2																																											
付着応力度	異型棒鋼に対して	1.4	1.6	1.7	1.8	2.0																																											